

文部科学省 特色ある共同研究拠点の整備の推進事業



慶應義塾大学パネル調査共同研究拠点 活動報告 Activity Report No.11

パネル調査共同研究拠点ワークショップ

【日時】2011年12月3日(土) 13:00~18:00
【場所】慶應義塾大学三田キャンパス 南校舎4階443教室

【プログラム】

直井 道生(東京海洋大学 海洋工学部 助教)

共同研究者: 赤林 英夫(経済学部 教授)
山下 絢(中央学院大学 専任講師) 他

『KHPS子ども特別調査の概要』

篠ヶ谷 圭太(研究員) 討論者: マッケンジー・コリン(経済学部 教授)

共同研究者: 赤林 英夫(経済学部 教授)
敷島 千鶴(特任助教)

『家庭要因が学力に与える影響とそのプロセスの検討』

李 青雅(研究員) 討論者: 河井 啓希(経済学部 教授)

『母親の就業と子どもの健康』

河井 啓希(経済学部 教授)

『2010年たばこ税引き上げの効果』

大津 唯(研究員) 討論者: 山田 篤裕(経済学部 准教授)

共同研究者: 駒村 康平(経済学部 教授)

『介護の負担と就業選択』

田中 規子(研究員) 討論者: 樋口 美雄(商学部 教授)

『男性と女性の就業継続の要因分析 仕事の充実度・満足度、
余暇時間の長さの満足度、健康の満足度、フレックス・タイムに
着目して(日本家計パネル調査2009年~2011年の結果から)』

敷島 千鶴(特任助教) 討論者: 石井 加代子(商学研究科 特任講師)

『子どもの社会性、適応感と家庭背景

お子様に関する特別調査2011から』

深堀 遼太郎(研究員) 討論者: 樋口 美雄(商学部 教授)

『近年の景気変動と女性の就業行動の動態的分析』

馬 欣欣(研究員) 討論者: 宮内 環(経済学部 准教授)

『世帯主の就業形態と子供がいる現役世帯の貧困

- 二人親世帯と一人親世帯の比較』

2011年12月3日(土)に、慶應義塾大学三田キャンパスにおいて、平成23年度パネル調査共同研究拠点ワークショップが開催された。昨年に引き続き、今回のワークショップも、共同研究拠点の活動に携わる研究員および学内の専任教員を中心に、日本家計パネル調査(JHPS)を用いた研究結果が報告された。今年は、教育・医療・雇用が主要な分析テーマとなっており、ワークショップでは、9の演題が報告され、研究員・教員らによる発表と、それに対する討論者のコメント、フロアからの質疑応答により議論が進められた。

2010年より調査を開始した、「子ども特別調査」の調査結果を用いた教育に関する3演題においては、子どもの学歴と家庭環境の関連、子どもの社会性やQOL(生活の質)と家庭環境の関連に関する研究結果が報告され、フロアより多くの関心を寄せた。医療に関する3演題においては、たばこ価格の引上げが喫煙率に与える効果に関する分析、母親の就業と子どもの健康の関連性に関する分析、家庭内の介護が家族の就業に与える影響に関する分析と、いずれも社会保障分野における重要なテーマが報告された。そして、雇用に関する3演題においては、継続就業のための要因や、景気と女性の就業との関連性、さらには貧困問題に至るまで、景気低迷下においてタイムリーな研究成果が報告された。

前回に引き続き、経済学・行動遺伝学・教育学等の様々な視点からの報告がなされ、本研究拠点の特色である学際性を反映したワークショップとなった。

